

第 2 回有識者会議における委員意見に対する対応

委員意見(抜粋・要約)	構想(素案)への反映等
1. 具体性	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 瀬戸内海側にも日本海側にも近いという地の利を活かし、構想では川釣りがあるとあるが、瀬戸内海側でも釣りが楽しめるし、そういったアピールするところをしっかりと書いていった方が良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 5-5 想定モデルⅡ『趣味・ボランティア活動』
<ul style="list-style-type: none"> ■ 交通のところで、近隣への生活交通に加えて東京や福岡、広島へもアクセスがいい。新幹線がある、インターチェンジがある、あるいは空港がある、その辺をしっかりとアピールするべきところはアピールしていくべきであり、もっと書き込んでいった方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 4-5「美祢市生涯活躍のまち構想」に関する地域資源－交通基盤
<ul style="list-style-type: none"> ■ 10 アール以下で、家庭菜園的なもっと狭い面積の取得も制度上で可能である。それをここに書き込むかは分からないが、広い所も空いていることから、ある程度方向的に示すことができれば、そういった施策も検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 構想では、現在の記載に留め、今後の空き家の活用を含めて検討をしていきたい
<ul style="list-style-type: none"> ■ CCRC は高齢者に来ていただきたいということもあるが、介護人材や医療人材などで若い方に来ていただくというメリットもあるので、そこももう少し打ち出してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 5-6-6 生活環境と医療介護サービス－新産業創出・雇用の創造
<ul style="list-style-type: none"> ■ 安心して住めると思っただけのようなフォローが出来るかどうか。そういう面での地域おこしのリーダーと言うか、移住者を支える地域のリーダーの養成をしっかりと書き込んでいただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 6-1 事業化に向けた計画策定
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域のリーダーが育っているところは良いが、いくら上から施設を作っても成功しないし、逆に下から施設を作って欲しいと上げてきた場合には成功している。地域リーダーをどう育てるかは大変な問題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 同上
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域をあげて小さい子どもからお年寄りまで中心になって盛り上げていくということを今やっているが、リーダー、引っ張って行く人がいなければできない。そのためにもリーダーを養成しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 同上
<ul style="list-style-type: none"> ■ 若い人にボランティアの気持ちを植え付けるのが大事。そういう若い人達のボランティアを今後は入れていかないといけない。最終的にはそれぞれのグループのリーダーが大切で、農業もそうであり、元気な地域には立派なリーダーがいて、そのリーダーが自分の地域だけではなく、もう少し幅広く活躍していただき皆を巻き込んでもらえると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 同上

委員意見(抜粋・要約)	構想(素案)への反映等
<ul style="list-style-type: none"> ■ 閉校となった学校が地域の交流やコミュニティの場として提供されているし、今後も増えてくるということで、現状認識をもう少し変えた方が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 4-5「美祢市生涯活躍のまち構想」の関する地域資源－交流拠点 ❖ 5-5 想定モデルⅡ『趣味・ボランティア活動』
<ul style="list-style-type: none"> ■ スケジュールの中にどういう完成が想定されるかをシンクタンクに聞いて、フォーラムやワークショップやセミナーを盛り込んだ上で審議会にかけて、我々が結果を想定して議論し、その終着駅の結果を目指して頑張る。その結果に対してさらにどういう評価を下すかが大切。問題はスケジュールであり、ロードマップである。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 6-2 スケジュール ❖ 詳細なロードマップについては、基本計画策定に入る際に、関係者と協議し決定する
<ul style="list-style-type: none"> ■ これからの事業計画の中で、どういった事業者が入ってきて、どういう資金計画で、どういうスケジューリングでやっていくのかをしっかりと詰めていただきたい。その辺のニュアンスを基本構想策定の中に書くことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 同上
<ul style="list-style-type: none"> ■ 何をどうして行くか、いつまでにやるかを定めることが大事である。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 同上
<ul style="list-style-type: none"> ■ ここにはベンチマーキングが無い。ベンチマーキングをして、成功している国内外の事例で学べるものは学んでいく。企業は必ずベンチマーキングを実施し企業努力をしていることから、ベンチマーキングが非常に大事である。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 本構想も他市事例を参考に進めており、今後も常に意識し、基本計画にも反映させる
<ul style="list-style-type: none"> ■ CCRC は産業政策の一つであり、孤立してやっていくことはそもそも無理。その全体を市の産業振興や農業政策を含めた枠の中の一つとして横軸をしっかり作らないと、従来のように縦だけになってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 基本計画では産業連携について、是非盛り込みたい
<h2>2. 情報発信</h2>	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 若者の移住について、企業に例えると、どうやって情報発信するかと言うものがないと物は売れない。どうやっていくかという方法論の問題を、もっとサクセスストーリーにつなげていくようなシナリオにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 基本計画では、具体的な情報発信の方法も検討する
<h2>3. 推進体制</h2>	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 美祢市を 20 年後、30 年後、あるいは 5、60 年後まで活力のあるまちにしようと思えば、若い人に積極的に構想に入ってください、継続的に美祢市がアクティブでいられるようなそういった構想が必要であり、この後の基本計画では検討していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 6-1 事業化に向けた計画策定の関係者には、若い世代や女性も想定している

委員意見(抜粋・要約)	構想(素案)への反映等
4. 移住対策	
■ 仲介役や調整役のようなアドバイザー制度を柱として入れるべきではないか。	❖ 5-6「生活環境と医療。介護サービス」のイメージ
5. 表現・構成	
■ 結局美祿の魅力は何かポイントになっており、やはり民間からするとジオパークが今のトレンドである。それであれば施策の中に嫌と言うほどジオパークを散りばめてしまうのも一つの方法である。	❖ 5-5 ライフスタイルに応じた雇用と生きがいの創出
■ もっとジオパークを前面に出したほうがいい。	❖ 同上
■ 『～地球公園（ジオパーク）で共に生きる～』をサブタイトルに上げるならば、ジオパークを縦串にして記述が進むような構想の構成・表現が必要ではないか。	❖ 同上
■ 秋吉地区の住民の皆さんは店舗がほとんどなくなると認識していることから、7頁の表現は違うのではないかと思う。	❖ 4-5「美祿市生涯活躍のまち構想」に関する地域資源 ❖ 5-3 方針
■ 14頁のイメージ図について、中心に家を置くと地域包括ケアシステムのイメージ図になるのではないか。また、下の美祿市出身について、確かにそうだと思うが、今言っているのは東京圏ではなくて、大都市圏の人の中から美祿市出身者をもう一度呼ぶと言うことではないか。	❖ 5-4「美祿市生涯のまち構想」のイメージ
■ 14頁のイメージ図において、“活躍”のイメージが図に描かれていない。ここは美祿市におけるコンセプト（活躍）の文章をイメージ図にしてはどうか。	❖ 同上
■ 構想の前半と後半の符号（番号等）の振り方がことなっている。図表にタイトルや番号が記載されていない。	❖ 図表に対しタイトルを記載
■ 構想の前半部分の「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」構想とは」は、構成のつながりが無い。例えば、2頁で唐突に「地域包括ケアシステムとの連携」という文言が出てくる。	❖ 前半は国が示す「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）構想」を転用したものであり、後半は美祿市独自の構想であることから、つながらない箇所も出てくる。